

## 平成26年度第1回八幡地域協議会会議録（HP版・概要）

日 時 平成26年4月24日（木）午後1時30分～午後3時17分

場 所 観音寺コミュニティセンター 第1・第2会議室

出席者（13名）

1号委員 齊藤善之 土井明敏 新保直美 池田昭則  
村上薫 加藤俊行 佐藤康晴

2号委員 長谷川明子 後藤純子 池田善幸 阿部喜至夫  
高橋知美 小松幸雄

欠席委員 荒生栄治

八幡総合支所：支所長兼地域振興課長 佐藤弥、建設産業課長 後藤啓  
八幡病院事務長 阿部博、建設産業課長補佐 後藤明広  
建設産業課長補佐 土田正人 地域振興課長補佐 荒川敏男  
地域振興課長補佐 村上秀俊 地域振興課主査 鳴瀬勉

傍聴者： なし

### 議事日程

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 会議録署名委員の指名
- 4 報告
  - (1) 市長への三地区地域協議会活動報告について
  - (2) 平成26年度八幡総合支所地域づくり予算及び管内予算について
- 5 協議
  - (1) 平成26年度八幡地域協議会年間予定について
- 6 その他
- 7 閉会

### 【協議の概略及びその結果】

本協議会は今年度第1回目の会議であり、3月に実施された市長への三地区地域協議会活動報告の概要や平成26年度の八幡管内の予算について事務局より説明があり、その内容について意見交換が行われた。また、今年度の地域協議会の開催予定回数や内容の説明があり、

委員より承認された。

## 1 開 会

○**新保副会長** 本日はお忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。これより第1回目の地域協議会を開催します。本日は全員出席の予定です。会議次第に従いまして、池田会長からあいさつをお願いします。

## 2 会長あいさつ

○**池田会長** 皆さん、こんにちは。ご苦労様です。大沢と日向は桜の開花がもう少しというところですが、一條、観音寺地区は満開になっており、今日あたり花見が最高ではと思われる。一方、農家の方々にとっては大変忙しい時期かなと思われ、忙しい中、参加していただき本当にありがとうございます。本日は3月に行われた市長への報告・要望の件を含めて協議していただきたいと思います。どうぞよろしくをお願いします。

## 3 会議録署名委員の指名

○**新保副会長** 会議に入る前に、会議録署名委員の指名を行います。番号順ということになっていますので、今回は7番の加藤俊行委員にお願いしたいと思います。加藤委員、よろしくをお願いします。

○**加藤俊行委員** はい。わかりました。

○**新保副会長** それでは早速協議に入ります。会長が議長となり進めていただきます。よろしくをお願いします。

## 4 報 告

○**池田議長** それでは次第の4の報告に入りますが、だいたい1時間半くらい、3時頃までの意見交換と考えております。先ほど申し上げたように忙しい方もいらっしゃると思うのでご協力よろしくお願いします。それでは最初に報告事項の(1)「市長への三地区地域協議会活動報告について」を事務局より説明願います。

○**事務局** ～資料1「市長への三地区地域協議会活動報告について」及び資料2「平成25年度三地区地域協議会市長報告会概要」に基づいて説明。～

○**池田議長** 資料2を見ていただくと報告会の概要がおわかりになると思いますが、ただ今の説明を聞いての意見や質問がございましたらお願いしたいと思います。文字にすると2ページくらいですが、平田の会長さんがとても時間をかけられ、我々が口を挟む余裕がなかったというのが本音といったところです。皆さん、何かございますか。

○新保直美委員 1年間の皆さんとの意見交換の内容を集約して、池田会長と一緒に市長へ報告という形にさせていただいた。重要性のある部分は意見として市長に述べさせてもらった。

○土井明敏委員 都市計画税の件で、市長が「少し勉強させて下さい」ということは、平成26年度はこの件に関しては要望しなくても良いということか。地域の人からは「発言する場があったら、どんどん発言してもらいたい」と言われている。今回は報告の形なので次回の会議からは改めて発言しようと思っている。

○佐藤支所長 八幡の都市計画税については簡単には廃止には出来ないというのが根底にあるが、例えば八幡橋から八幡保育園までの土手の拡張についても手をかけるとなると住宅移転を伴う大きい整備工事となる。一方、都市計画税の廃止となると何千万円かの収入減となり地域での財源を失うことになる。それに約40年も前に下水道の整備を目的として都市計画区域としてきた場所でもある。しかし、市の中心部から離れ、人口が減っている地域で都市計画税を支払いしていくのは大変だということを訴えていくべきだと思う。その根拠として、投資がなければということが1つと、都市計画区域としての人口要件がある。中心部の人口が3千人ぎりぎりの状況であり、5年後の人口を推測すると観音寺・市条と言えども減少するだろう。都市計画税が重荷になっているとすれば、今後も要望を続けていく必要があると思われる。

○池田議長 私もこの件は、ここで諦めるのではなくて要望を継続していくべきであると思っている。

○佐藤支所長 平成17年に市町合併が行われたが、市の中心部の都市計画区域と10km離れており、今後、八幡都市計画区域と連担という形の見直しも出来ない。

○土井明敏委員 今後、この件に関しては佐藤支所長にも相談しながら機会ある毎に発言していきたいと思っている。

○池田議長 他にありませんか。

○加藤俊行委員 市長の答弁で除雪費用が1日500万円位かかると発言しているが、これは市全体の分なのか、旧3町だけの分なのかと、排雪すると1,500万円かかるのは市全体の分なのかお聞きしたい。

○佐藤支所長 市全体の分と思われる。

○加藤俊行委員 排雪に関して、観音寺や市条の大きな十字路に冬場に時々雪が積み重ねら

れている状況だが、他の八幡地域に関しては排雪する必要が無い訳であり、3倍もかからないのではないかと。人口密度の高い所とか交差点で左右の見通しが積雪で悪くなるような所を排雪してもらいたいとのことなので、単純に排雪すると3倍かかるので容易ではないということにはならないと思う。

○佐藤支所長 排雪にはバックホーやロータリー及びダンプ車が必要となる。八幡病院の駐車場も大雪だった年、排雪する場所が無くなり業者をお願いしたが、普段だったら1時間もしないところ、排雪に2日ほどかかり60万円位費やした。加藤委員の話は交差点だけ除雪すれば良いという話だが、その場所まで色々な機械を持ち込む手間などを考えるとそう簡単ではないというか、多額の費用がかからないものではない。大雪のおとし、夜間も市役所職員が出勤して除雪をしたが、その年の多額の除雪費用が市長の頭にあったのかもしれない。

○池田議長 市街地と八幡地域では降雪事情が違う。

○佐藤支所長 市長も大雪だった八幡の状況を知らないかもしれない。

○池田議長 他にございますか。ないようですので、次に報告事項の(2)平成26年度八幡総合支所地域づくり予算及び管内予算について事務局より説明願います。

○佐藤支所長 ～資料3「平成26年度八幡総合支所地域づくり予算及び管内予算について」を基に説明～

○池田議長 ただ今の説明に対してご意見ご質問がありましたらお願いします。

○高橋知美委員 鳥海八幡中学校の改修事業の関係で、武道館の建設が決まった場合、修道館はどうなるのか。

○後藤建設産業課長 修道館は継続する。

○池田議長 八幡タウンセンターに太陽光パネルを設置することだが、発電能力はどのくらいか。災害用という考え方で良いか。

○佐藤支所長 災害時にはタウンセンターが防災拠点になるという前提で、太陽光パネルが三総合支所と上田コミセンら5箇所に設置される。パネルを載せたとしても支所の全部の電気を賄うことは無理なことであり、災害拠点としての機能を果たすためのものである。

- 高橋知美委員 災害以外の普段でもパネルの電気を使うということはあるのか。
- 後藤建設産業課長 蓄電するだけのものであり、通常は使用しない。また、容量的にも小さいので売電もしない。
- 池田議長 一般的な発電能力は、家庭用の大きな発電機が 1.5kW くらいで、現場の工事用で 10kW くらいだ。今回はあくまでも非常用対策の発電パネルということのようだ。それと、消防八幡分署の跡地の利用は考えているか。更地にして終わりか。
- 後藤建設産業課長 出来れば、売却処分されたらと思われる。
- 池田議長 これだけの解体費用をかける訳なので、うまく再利用してもらえればと思われる。
- 阿部喜至夫委員 高校生の通学バス保護者会支援の補助金の件で、どの位の人が利用してこの 66万5千円の補助金は実際かかっている費用の何割くらいになっているか。
- 後藤建設産業課長 補助金は定額であり、利用者数に関わらず同じ額で3分の1くらいである。
- 池田議長 子供の数が少ないと保護者の負担が増えるということか。
- 後藤建設産業課長 保護者会でも利用者の数を増やすような工夫をしており、現在、旧鳥海中学校の学区からも利用している生徒がいる。
- 佐藤支所長 保護者の会費としては、年会費が4千円、1回の利用につき2百円、年間予算が2百万円くらいである。約80人の会員がおり、以前、私の子どもが通っていた頃は、乗る、乗らないに関わらず会員になってもらうようお願いしていた。去年は上田地区からも2、3人利用しており、今までも安田や星川地区の人達に呼び掛けはしていたが、普及しなかったようだが、鳥海八幡中になって一体化してから利用する人が出てきたようだ。
- 齊藤善之委員 八幡総合支所管内の予算の関係で、例えば「中山間地域等直接支払事業」の14,925千円は国からストレートに来る補助金と思われるが、管内予算の合計約5億円のうち国の補助金はいくら位か。
- 佐藤支所長 中山間事業については市全体で4千万円くらいの規模で、そのうち県支出金ということで国からくるお金が3千万円なので、一般財源としては1千万円になってい

る。

○佐藤康晴委員 大島田の消防機具庫の土地は私有地だが、使用契約はどのような形になっているのか。

○後藤建設産業課長 土地に関しては無償提供していただいて、建物を市で建てるといった形になっている。

○佐藤康晴委員 元消防団長の土地なのでそのような形になっているのかも知れないが、普通の個人の土地の場合、果たして同様となるのか。固定資産税もかかる訳だが。

○後藤建設産業課長 八幡町時代だと自治会で町に寄付をして町有地にしてから建てていたが、酒田市の場合はそのように財産を持つようなことはしない形にしている。それに固定資産税は減免になる。一方、個人の土地だと相続の関係で問題が出てくる可能性もある。

○土井明敏委員 常禅寺の自治会館も自治会の所有と思っていたところ、私有地だったために相続の関係で問題になった記憶がある。

○池田議長 他にないようでしたら、次の資料の説明をお願いします。

○佐藤支所長 ～資料4「ふたりを結ぶ神秘の鶴間池赤い糸事業実施要項(案)」及び資料5「八幡過疎地域活動推進事業」に基づいて説明～

コミ振の総会でも説明させていただいたが、1つ目が赤い糸事業ということで実行委員会を作った3年間の事業となる。1回目が7月に鶴間池までのトレッキング、2回目が9月にそば打ちを行い親睦を深めてもらう。地域協議会の委員の皆さんからも実行委員として是非ご協力願いたい。4～5人からなってもらえばありがたい。

2つ目の過疎地域活動推進事業については、昨年、市民アンケートを実施し、その結果、不満度や重要度のランキングを見ると、大沢・日向地区で「一人暮らし世帯などへの見守り体制」の項目が八幡全体から比べると高くなっている。「買い物や通院などの公共機関」についても「大沢、日向の人は大変だろうな」ということで八幡全域の人達が気にかけているようだ。「除雪」「雪下ろし」「空き家」「一人暮らしの見守り」「孤独化の防止」「公共交通」といったところを地域の課題と捉えており、日常生活への影響がこれから益々出てくると思われる。まだ何とかなっている部分でもこれから厳しくなるだろう。大沢・日向地区は一條・観音寺地区に比べても高齢化比率が高くなっているが、人口減少や高齢化社会にあっても、その地域に住んで行ける持続可能なシステムを今から構築する必要がある。そうした課題を地域の方々から考えていただいて、出来ること

であればコミュニティビジネスへの展開が図れればと思われる。今年度は法人化へ向けた検討ということで、大沢・日向地区における現状と課題を地域の人達と一緒に話し合い、浮き彫りにして、アドバイザーを講師に研修会を行うというものである。平成28年度には、おおよその目途がつけられればと思われる。

～新聞の切り抜き記事2枚を基に説明～

1枚目の切り抜き記事になるが、酒田市の琢成学区で高齢者支援ということで、組織を立ち上げて事業を行っている。酒田市の高齢化比率は飛島が一番高く66%、その次に琢成の40%になっていて、八幡は34%である。琢成学区の住民人口は八幡とほぼ同じ6千人が住んでいる。そのシステムの運営は「よろずや琢成」という組織で、琢成学区コミュニティ振興会に利用希望者が現在19人登録され、51人のサポーターが登録されている。登録した利用希望者は1,500円分の買い物代行や話し相手、パソコン指導などのメニュー別のチケットを買いサービスを受けることが出来る。2013～2014年度は市から助成を受けられるが、その後は自主運営になるという。

2枚目の切り抜き記事では、改正過疎法ということで現在の過疎法は4期目となり、それが更に延長になっているが、過疎地域についても見直しをした結果、22団体増加し、797団体に増えた。全国に1,741しかない自治体のうち、46%になっている。神奈川県だけが過疎地域が無いが、ほぼ日本全国に過疎地域がある状況だ。今までは国がお金を配って市町村で何とかしてくれみたいな票集め目的みたいな格好だったが、この記事にある増田寛也元総務大臣の論文によると2040年には人口減少により約3分の1の523市町村が人口1万人未満になるということで、都会一極集中となり、この論文では「農山村はたたむ」と言っているように見える。一方、農山村には「温かい、かっこいい」といった魅力があるということも記載されている。去年、予算要求で八幡の地域おこし協力隊ということで7百万円かけて大沢・日向地区に張り付ける要求をしたが通らなかった。飛島には新しい協力隊員が働いているし、全国で地域づくりに燃えた978人が協力隊員として活躍している。増田氏の論文は「必要なのは、補助金ではなく、様々なことに使える交付金を増やすことであり、地域づくりを一緒に手伝ってくれる人間を増やす政策だ」となっている。

以上、紹介した形も取れば良いなと思いつつながら「過疎地域活動推進事業」を進めて行きたいと思われる。

○池田議長 現在の八幡地域の状況について一番切実な話を説明していただいた感じがしますが、何かご意見ご質問はございますか。

○佐藤康晴委員 先日、県の資料に消滅集落の件で予想される集落が酒田市にもあるとなっていたが、八幡地域の中に消滅が予想される集落はあるのか。

○佐藤支所長 現在、人口規模が小さいのは開拓で入った小平、前山、湯ノ台、大台野にな

っているが、直接、住民に移転の予定など聞いたことがないので予測はつかない。山から下に降りたいといった気持ちが若干あっても、がんばっているのが現状だ。しかし仮に1件だけ残ったとしても集落とは言えないだろう。

○池田善幸委員 今、説明があった資料には興味をそそるような数字が載っているが、全国で現在1億3千万人くらいの人口が2040年には1億7百万人まで減っていくという。2千万人が減るということで、現在の北海道と東北、四国の人口を合計した分と同じくらいという。補助金で過疎を食い止めるのも限界がある訳で、この地域を出て行きたい人は追わず、逆に入って来たいという人には心を開いて「一緒に、この地域で生活をして行きましょう」とか「ここに来ると人と人の関わりが温かいからここに住みたい」となる訳で、そうすると人づくりが大切になってくる。そういった人づくりの基礎や地域に入って来たい人へのきっかけづくりの後押しをするのが行政の役割である。

○佐藤支所長 皆さんが地域のことについて、心の中で思っていることは、多かれ少なかれあまり変わらないと思う。それを行動に移さないと中々実っていかない。数字の面で言うと八幡の場合、2033年の人口推計が3,999人となっていて覚えやすい数字になっており、私が生まれた昭和29年の合併した時の11,000人をピークに人口は減少している。そのピーク時には一家に5.5人くらい居たが将来は2人台だ。少なくとも5年先、10年先のことを考えて仕組みや組織を考えていかなければならないと思われる。これから地域に入っていくことになるが、ちなみに新出の場合、現在29件で100人おり、平均1件あたり3.3人である。若い人は家を出ていったら戻って来ないということを前提に、地域がどうなっていくかをシュミレーションしてもらって作業から始めて行きたいと思う。

○池田議長 八幡地域の75歳以上の割合が4人に1人となっており、どこに行っても高齢者がいらっしやるということになる。

○池田善幸委員 労働人口というのは何歳以上からか。

○佐藤支所長 生産年齢とって15歳以上の64歳までとなる。

○池田議長 赤い糸事業について何かございますか。

○佐藤支所長 少子化問題の対策として、結婚・妊娠・子育てとあってそれぞれ保育園の充実や医療費の補助、ワクチンの接種などがあるが、最初の結婚の部分が大変な訳で、国の結婚推進施策における市町村への補助金交付に手を挙げたのが酒田市である。また、結婚推進員の後藤甚一さんは60組を成立させたという。とにかく情報がなくて駄目かと思われる。出合いを求めているが、自分で作ることは中々出来ないというような人



に、何とかきっかけ作りの応援として市内各地で様々な取り組みをして行く。皆さんからも実行委員会組織に名前を連ねていただき是非ご協力願いたい。

○佐藤康晴委員 農業委員会の婚活事業も女性委員が中心になってやっているようだが、参加者を集めるのが大変だという。

○長谷川明子委員 なぜ、つけまつげも落ちるような大変な思いまでして鶴間池なのか。

○佐藤支所長 山の登り降りは無ルートを通るし、40分も歩けば到着するので、大変とまではいかない。

○佐藤康晴委員 八幡の定住化を目的というが一緒になると市街地のアパート暮らしとなるかも知れない。

○池田善幸委員 そのようなきっかけ作りのイベントの参加者を集めることが容易ではないということは、適齢期の人口の減少が原因かと思われる。

○佐藤支所長 結婚したい時が適齢期だが、女性は33歳くらいまでに結婚しないと、中々子どもが生まれる確率は低くなる。子どもがほしいとすれば、女性にはそれなりの適齢期がある訳である。

○池田善幸委員 酒田の中学校も合併して飛島含め8校となった。今年の中学校の卒業生は千人を超えているはずだが、それが順調に酒田に残ってくれば、人口が千人ずつ増えてくることになる。ところが進学し、地元で希望する職が無いからということで戻ってこない人がほとんどなわけで、職種を選ばなければ地元にも仕事があるといいながらも中々地元に戻ってくる人は少ない。酒田に生まれて将来とも酒田に住みたいという子どもがほとんどということであり、働く場所が無いということが一番の原因であろう。やはり生活する基盤というものを考えていかないと中々問題解決には至らないだろう。

○佐藤支所長 定住化促進となると、他の自治体の事業を参考にして酒田でもやって行くだろうし、社会減を減らしていく政策も打たなければならない。

○池田善幸委員 学校統合をしない町や村をテレビで紹介していたが、小学校が無くなった大沢・日向地区はやはり高齢化が進んでいる。学校を無くしておいて、片や「若い人に地元で定着を」といっても定着するわけがない。学校の運営に年間3~4千万円かかるから合併を進めたいといった発想と思われる。人づくりの施設である市体育館や社会教育施設でも使用料金を徴収するのが当然のような風潮がある。「酒田は人づくりにとても力を入れており全校生徒が50人になろうと学校は残すよ」とか「学校は子ども達の教

育の場だけではなくて地域の拠点となるので残す」といった方針が過疎対策としても重要である。一方、この地域の出生の数を見ると10年先、20年先には鳥海八幡中学校の機能が維持していけない状況になるだろう。そうすると仮に酒田六中と統合になった場合、一番遠い升田から毎日通学となると、ますます升田に定着する若者がいなくなる訳であり、今まで学校が近いとか生活に便利とかいった理由で市街地に人が集まってきたのが現状である。たとえ、いくら不便な地域であろうと、ここに住みたくなるようなハートのな人づくりが大切になってくるかと思われる。

○佐藤支所長 市町合併して地理的範囲が広がった。小学校では複式学級になると合併の検討になるが、自分の考えとしてはそれが限度かと思われる。小学校の統合は松山の3小学校や川南の黒森、広野、浜中で一段落だろう。中学校の統合については、通学距離の関係等から、そのうちに市や教育委員会で「これ以上、統合はしません」との方針を打ち出すと思われる。20年先はわからないが、10年くらいは現状維持で行くだろう。

○高橋知美委員 八幡の学童保育所に通っている児童にかなり荒れている子どもがいる。保護者達も対策を練っているがどうにもならない状況である。高学年の男の子などが騒いで指導員の先生が注意をすると胸倉をつかまれるなど、そういった子どもがいる状態で果たしてこのまま学童保育が出来るのかとなり、酒田市の発達支援室に相談して、状況を見てもらえないかと話をしている。そのアドバイザーの1年間の派遣費用も保護者の会費から出すような形になっており、学童保育所は出来たが、運営は全て保護者に丸投げといった状態では保護者の負担が大きい。そこで、八幡の新しい事業に「過疎地域活動推進事業」ということで少子高齢化対策とあるが、学童保育への支援を事業内容に盛り込むことは可能か。

○佐藤支所長 「過疎地域活動推進事業」は中山間の高齢者の課題解決を目的としており、学童保育については考えていない。子育て支援の関係については、それぞれの担当部署にて対応してもらおう形になる。学童保育の所管課（子育て支援課）もある訳なので現状を話していただき対策を練ってもらえればと思う。

○佐藤康晴委員 そのような話が出たということで総合支所から担当課に連絡しても良いのでは。

○佐藤支所長 「過疎地域活動推進事業」で学童保育の事業もあるのかとの質問だったので、それはやりませんよという返答です。あまり範囲を広げても収拾がつかなくなるということ。

○加藤俊行委員 学童保育所の人数とか補助金などの八幡の現状についてを教えてください。

○佐藤支所長 お便りなどをもらうくらいで総合支所では詳しい内容については把握していない。

5 協議

○池田議長 他になければ次の協議の（１）平成２６年度八幡地域協議会年間予定について事務局より説明願います。

○事務局 ～資料６、平成２６年度八幡地域協議会年間予定（案）を基に説明～

○池田議長 ただ今、説明ありましたように年間４回の会議の予定を組んでおります。日程的には決まり次第皆さんに連絡する形にさせていただきたいと思っております。諸行事の合間をぬっての開催になりますので皆さんのご協力よろしくお願いたします。

5 その他

○池田議長 最後にその他ですが、何かございますか。

○高橋知美委員 先程の学童保育所の件で、八幡総合支所の敷地内にあるにも関わらず支所と学童保育所の横のつながり、縦のつながりが無いということで、私からも子育て支援課へもう少し連携を取れるよう話をしたい。学童保育所の人数は現在３５名で６年生から１年生までいる。多少の補助金はあるが、運営は入所料や保育料を基にすべて保護者でやっている。指導員は現在４名いるが入れ替わりが多く、６月頃には３名となる予定だ。現在、保護者会や運営委員会で話し合っていることは、これまで学童保育所というものがありにも閉鎖的だったために地域の方々がどういった所か良くわからない状況になっていた。もっと気軽に地域の方が寄ってもらえるような、地域の宝である子ども達を皆さんで見守ってくれるような環境にして行けたらと考えている。先程話したように現在、大変な状況なので市の発達支援室と話し合っていきたいと思っており、皆さんにも学童保育所に意識を向けてもらえればとお願いしたい。

○池田議長 今後、市のほうと良く話し合いをして、やっていただければと思います。

○小松幸雄委員 全戸配付されている八幡総合支所の職員配置図の字が小さ過ぎて見づらいつの声が出ている。来年度から考慮願いたい。

○事務局 配置図には、支所の職員の他に各コミ振や病院も入れている関係上、スペース的に限りがあるために用紙のサイズを大きくするしかないと思われる。

○池田善幸委員 この配置図を見ると直通電話が大きく記載されており、直接担当係に繋げることが出来るが、この間、朝の８時３５分頃電話したところ警備会社に繋がった。「失

礼しました。間違いました」と電話を切ろうとしたところ、警備会社の人から「役所の電話の切り替えがされていない」と言われた。今後、気を付けるようにしていただきたい。

○後藤建設産業課長 電話の切り替えは、朝、手動で行っており、されてないと警備会社から観音寺コミセンに連絡が入って、コミセンから支所に連絡が入るようになっている。忘れないようにしたい。

○佐藤支所長 人事異動により入れ替わりがあったので、職員の自己紹介をしたい。

～支所の職員、自己紹介～

○池田議長 その他ございますか。

○事務局 会計システムが4月より変更になって、遠方の委員の書類への押印は必要なくなったのでよろしくお願いいたします。

7 閉会

○池田議長 それでは閉会をお願いします。

○新保副会長 本年度は新しい事業も入っており、今年1年間皆さんと協力してやって行きたいと思いますのでよろしくお願いいたします。それでは、これもちまして第1回目の地域協議会を閉会いたします。委員の皆さん、事務局の皆さんありがとうございました。ご苦労様でした。